

# information

## あまるめゲストハウス MOKKEHOUSE

余目駅徒歩5分の素泊まりの宿  
〒999-7781  
山形県庄内町余目上猿田15-22  
☎ 080-9256-3420



<https://mokkehouse.business.site/>

## 合同会社 dano

ふるさとのココロを  
世界へつなぐ

デジタルマーケティング支援事業  
Web コンテンツ企画・制作事業  
ふるさと発信事業



<https://dano.co.jp/>

## You Tuber アフロリゅうじ

公式 YouTube

オフィシャルサイト



@afuroryuji



<https://afuroryuji.com/>

## 若者支援コンシェルジュ

若者向けの元気応援窓口

山形県に在住または所縁のある若者の地域活動を応援する事業です。  
一人でも多くの人と課題を共有することで、解決の糸口が見つかる可能性が広がります。

なんでも相談窓口

若者サポーター

若者の交流の場づくり

情報発信

若者のみなさんの地域活動を応援しています！

◎ まずは話してみよう

☎ 080-4732-3804

なんでも相談窓口 (平日 9:00 ~ 19:00)

check!

イベントや支援情報など情報もりだくさん！  
おこしあいネット  
<https://yamagata-okoshiai.net/>



★メールマガジン 毎月5日発行中!

★SNSもあるよ! @wakamonoshienc



若者支援コンシェルジュ事務局

〒990-0832 山形県山形市城西町5丁目29-19 (AISOHO 株式会社内)

TEL 080-4732-3804 (平日9~19時) FAX 023-673-0703

令和5年度若者支援コンシェルジュ事業 (山形県しあわせ子育て応援部多様性・女性若者活躍課)



**伊藤** 立地が良くて、集まれる公民館のようでもあるし、旅行者にとっては町へ練り出す拠点にもなっているよな。

**佐藤** 作る時も2人に助けてもらいました。不要な小屋の解体の時とか、どうしたらいいかわからなくて、金づち一本で向かったからね。

**難波** 屋根を剥がすのに釘抜きしなきゃいけないからね。ボールとトンカチ持ってとりあえず登ったら、隣のおっちゃんヘルメット貸してくれたんよ、野球の(笑)。解体するときは同級生で集まって、引って倒した。

**佐藤** 久々に会うような同級生も協力してくれて、大きな活動の輪になったっけ。

**難波** そうやってたまに会うから、頑張っている同級生を意識して、俺も頑張ろうって思えるのかも。

### 故郷と関わり続ける理由と意味

**伊藤** 起業のきっかけは、地元がめちゃくちゃ好きだったということ、村(旧朝日村※)がなくなった悔しさ。自分の地元が緩やかに死に向かっているんじゃないか、大事な場所が消えてしまうのではないかという危機感があった。とはいえ就活の時期になると、今までやってきた活動と切り離してどこに就職するかという話になる。だから、学生の頃に抱いていた「地域を無くしたく

部門も作る予定です。

**伊藤** 今の裕太の話を聞いて、満たされているのって大事だ。自分が潤うから他にシェアできるという流れがある。補助金とか、そういうお金を巡らせる仕組みを30歳になってちゃんと使えるようになってきたな。

**難波** 思い返すと、活動する中で、当たり前前に続いていくものが当たり前ではないと気付く瞬間が結構あった。だから動画に映したいし、いろんな場所に行きたいんだなというの、この10年での気づきです。

3人にとって庄内とは

**佐藤** 残していきたい地域。自己満足と言われようが本気で向き合っていたいし、

好きだから残って欲しい場所です。

**伊藤** 自分が庄内に対して感謝の感情「もっけだの」があるし、活かしてもらったと思う。それに、人を活かせる場所だと思っただけ。ぼくは人の活躍していきまよまや能力の開花といった、その人の内側から湧き出すものに触れてたくて、庄内はそれを引き起こし得る場所だと思っ

**難波** 正直、地元にこだわりはなくて、ぼくは人の根底や想いに触れて紹介できれば、たぶん他の地域だって活動はできると思うんですよ。でも、地元にいると、エネルギーが高まる感じがするんですよ。地元の子とも達とかに「頑張ってるね」と言われると、なぜか頑張らなきゃいけないのか、何をやりたかったのかに立ち返れる。ぼくのルーツです。

ない」というのは「地域に仕事をつくる」ことで解決するのではと思っ、地元でお金を回すことが地元に住み続けるために必要なことなんだと気づいたんです。卒業後は視野を広げようと、5年で戻るともりで東京の会社に就職しました。結局2年で辞めたけど(笑)。

**難波** 大貴がこっちで起業するって話を聞いたから、俺も「会社を辞めてユーチューバーやる！」ってまずは勢いで(笑)。

**伊藤** 起業する時に童次と「10年後の、仲間をつくる。100年後へ、念いをつむぐ。」という理念を決めました。

ぼくの家の近くに400歳の即身仏さんがいるんですけど、庄内って数百年超えてくるストーリーが結構あって、この地に先輩方がいた気配を感じることも支えになっています。「おもい」も「念」の字を当てていて、死後残るものに自分はロマンや希望を感じるので立てたテーマでした。

ただ、自分ができる仕事はデジタルマーケティングだから、5年間その業でやってきたけど、主人公を増やすためにはそれではないのかとは最近よく考えます。正直、なんで地元で活動しているのかと言えば、一番、自分を活かしやすいからかもあって、ぼくらがアクセスできる人脈、歴史、話せること、想い出がある。都会じゃただの20代だけど、ここにいれば話せることがたくさんある。地元は間違いなく好きだし、

好きだという話ができるのも得たなって。せっかくある自分の人生資源を使わないのはもったいないね? みたいな。

**難波** ぼくは少し大貴とは違って、いろんなものに光を当てて、その光を輝かせたい。なぜ即身仏になったのかは聞けないけど、きっと他者や地域のためだと思っ。そう考えていた大人がいたということを知らないままであるのが嫌で、それこそ裕太の地域への想いとか、それを伝えるための伝え手として俺はいたい。根底は「紹介したい!」っていう思いですね。

**佐藤** 自分は、ゲストハウスが目指されがちだけど、農業のほうが気持ちが大きくて。農家として大規模経営を目指しているのも、農家の平均年齢が今68歳くらいで、この先団塊の世代が辞めていくと、この庄内平野という超優良農地が廃れてしまう可能性があるから。農業は景観維持にもなるし、水田はダム機能を持つてる。これは守っていかないといけないことだと思うんです。そのためには農業もパージョニアップしていかないといけないから、設備投資もガンガンやっています。これまでは、農地の面積を増やして自分が幸せになることがテーマだったけど、今は自分だけ幸せになっても面白くないと思う。だから、土地生産性を高める努力をして、規模を拡大できるだけの体制を作り、従業員に高い給料を払って、町にお金を落としてもらおうよ

な仕組みを作って地域貢献をしていきたいというのが、今の考え。目標は35歳まで(残り5年以内)に庄内地方を中心に100ヘクタールの経営を実現すること。規模拡大に伴い夢を共有できる仲間も増やし、ちゃんと儲かるかっこいい農業を実現し、地域を守っていきます。補助金も貰っているから、生産性を高めて税金を町にたくさん納めることも仕事だと思っ。今、法人化も考えていて、会社を作っ、同時に人材派遣業もしよう。ゆくゆくは農業生産

※朝日村は2005年に合併し鶴岡市となった。

